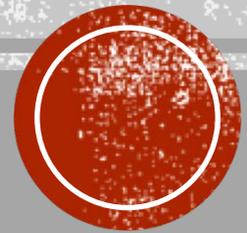


シカとの事故は
仕方ないでは済まさない

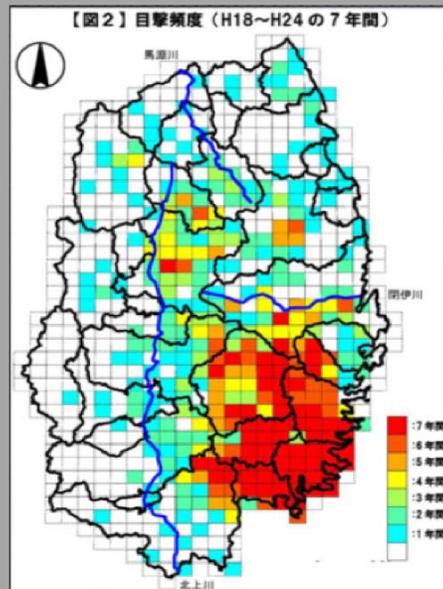


合同会社 岩手野生動物研究所

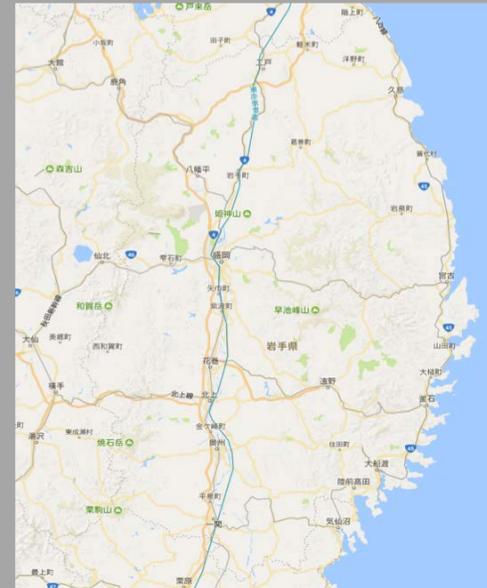
代表社員 西 千秋

事業背景

- 岩手県内でのシカの分布拡大に伴い、列車とシカの衝突事故の増加
- 岩手県の場合、特に沿岸地域での衝突件数が多い



第4次シカ保護管理計画（岩手県）

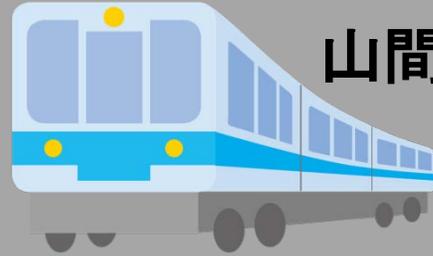


googlemap



シカとの事故は仕方ないのか？

季節移動
分散



山間部の路線

安全輸送に支障
事故処理にかかる労力

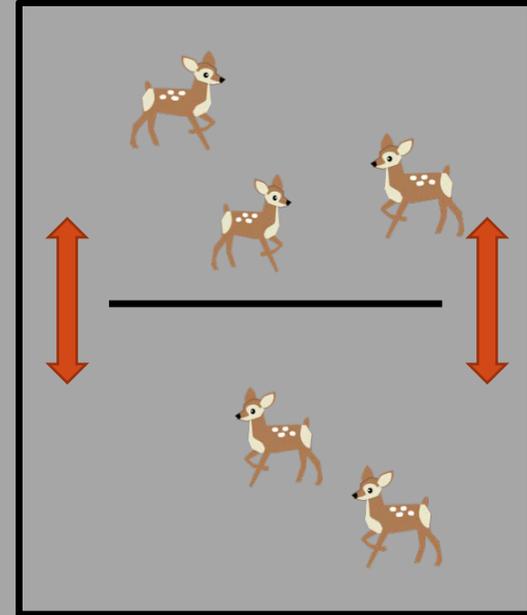
列車停止・死体処理・列車と線路の安全点検・乗客の安全確認



仕方ないでは済まさない！

岩手大学とJR東日本盛岡支社で共同研究がスタート！

- 専用試験場で科学的検証が行われている（日本初）
- 様々な動物糞で検証
- ライオン糞のみがシカに対して危険率 0.1%で有意に忌避効果を示す
- ニオイに対して慣れない
- 特許（第4817914号）を取得
- 原液を希釈した液体を散布するため、作業上の施工も簡単



本事業の地域への貢献

- 沿岸部は震災被害が大きく、高齢者も多い地域
- 車の運転ができず、列車を利用している方もいる
- ダイヤ通りに運行される列車は重要な存在

鉄道事業の安全・安心を補うことは
経済損失を低減するばかりでなく
地域住民への負担を軽減することにもつながる



課題・今後の展望

- 長寿命化の検討
- シカと列車との事故については、国内各所で大きな課題となっているため、今後各鉄道現場におけるシカ対策の一つになるよう働きかけていく
- 本製品はニホンジカの本能に働きかけ、忌避行動を引き起こす商品であるため、ニホンジカだけではなく、エゾシカ、また海外のシカ科の動物などにも適用することができると考えられる
- 高速道路での活用

